

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原 1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 025-794-4168  
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp  
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

## 球根情勢報告

### 関東甲信地区雪害による 13 年ワヅガ産百合/14 年産南半球産百合球根流通状況

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

平成 26 年 2 月 14 日/15 日にかけて関東甲信地区に降った大雪の為、対象地域において一次産業にかかわる施設及び仕掛中の農産物を中心に大きな被害が発生しました。

当社に関わる部分では主要百合切花産地である埼玉県深谷地区/群馬県/栃木県において大きな被害を受けた方々が居られます。

現在までの所では倒壊してしまった温室の撤去作業等がようやく個々の農家レベルで開始されたところで、被災を免れた残り少ない施設の中での栽培出荷作業を行いつつ、今後の営農計画/再建計画を同時に進めていかなければならない状況です。

ご承知の通り、球根切花、特に百合切花の場合、H25 年の春には、H27 年の春までの作付計画を立て、1 年間に一度、収穫されるワヅガ産百合球根 (H25 年=2013 年産)、南半球産 (H26 年=2014 年産) の仕入契約作業が行われていました。

既に 2013 年産百合球根の一部は被災地への納品・定植栽培作業が開始されておりました。(約 2,100,000 球。) 13 年産ワヅガ産百合のみでの球数。これは、球根の定植作業は開始されていなくても、既に栽培準備が開始されたものとして被災球数に含めました。球根業者が引き取れないからです。

12 年産ワヅガ産百合球根からの仕掛品、13 年産南半球産からの仕掛品を合わせますと、数百万本規模の莫大な被害が発生している事となります。

実はチュリップでも大きな被害がおきています。

このような状況の中で、2 月 18 日に現地に入り、被災状況確認作業を開始し、2 月 24 日には被災者の皆様との「球根流通対策」を開始しました。被災した直後で、まだまだ呆然としている状態の中で、「どうしたら被災額を減少させられるか?」、規模を縮小しても「正常な営農を回復させられるか?」という観点から打ち合わせを開始しました。

これらの作業を開始する事は、被災者の心情や、体制を整えきれていない関係機関とのバランスを考えれば、「時期早々である」という思いも強くありましたが、「被害状況の把握・復旧復興対策を立てて行く為」には、「スタートラインの整備を行わなければならない」という判断で、「向こう一年以内に植え付けることが出来ない球根」の特定と、「向こう一年以内に一旦規模を縮小しても営農を維持するために必要な球根」の特定作業を行いました。

以前確定には至っておりませんが、「13 年産ワヅガ産百合球根・球根業社預け分の球根」と「14 年産南半球産百合球根」において約 2,100,000 球の球根が植込み不能となる様です。

(現地での調整作業が進められており、今後業社預り分からキャンセル依頼が増加する可能性が残されております。)

埼玉県深谷地区において、「全農埼玉系統販売」を行っている組合員の皆様の主要な百合切花は、「透かし百合/L.A ハイブリッド百合」です。植え付け不能リストに載ってくる主要な品目となっています。O.H/O.T 系については、被災状況の内容から、生産の継続はかなり厳しい事が推測され、植え付け不能リストに計

上されるケースが多いようです。(％でいうと…。)

当社が、被災された方々の球根のキャンセルを受理する事は、直接被災された方々の被災額の減免に繋がります、当社においては「お預かりしている球根を被災者の代わりにその価値を保全していく事」が重要な仕事となってきています。

植えこめない球根が、当社の分として廃棄されれば、それは「二次被災」を受けたこととなります。仮に対輸出業社に未入荷、又は将来掘り取り納品予定のものを「申し訳ないが引き取れない」と発注を取り消せば、輸出業社レベルで廃棄され、それは「三次被災」を受ける事に繋がります。

現実的には、二次被災・三次被災を救済する事が可能なことなのかどうかはわかりません。まずは直接被災されている方々の救済が一番大事だと考えています。そうでなければ将来が見えてきません。

主要百合生産県で起きたこの大事故を、百合切花産業全体への悪影響を最小限に留めていきたい。

今週から、  
日本花卉生産者協会 球根・球根切花部会 (J F G A)  
日本花き球根輸出入協会 (J F T A)  
日本花き卸売市場協会  
の各協会様に対して産業維持対策・対応について要望を上げていきたいと考えています。

一産地の救済策という意味だけではなく、「百合切花産業」の正常な状態への回復・維持を図っていただきたい。

\*日本の百合切花生産流通の安定化。(品目離れを防いでほしい。)

\*外国産の球根を使用していく上で、「外国の球根農家/球根業社から見た日本という球根消費市場の安定化」(外国の球根農家に安心して日本向けの球根/品種を栽培してほしい。)

過去二年間の切花価格の低迷、13年産オランダ産百合球根不作等の影響、加えて今回の大事故(雪害)。

相当量の生産減少が見込まれています。

「なんとか透かし百合/L.Aハイブリッド百合、百合全体の商品性を維持して行ってほしい。」

情勢報告というよりも、「皆様へのお願い」となってしまいますが、「被災地が植付けられなくなった球根」につきまして、全国の百合切花生産者の皆様には特段のご配慮をいただき、何卒生産を維持していただき、「日本産百合」として「市場供給」していただきたく、よろしくお願い致します。

不明な点等あれば、お問い合わせください。  
よろしくお願い致します。

以上  
森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>

私共はLPIJの運営に賛同し  
協力・応援しています